

# 循環器疾患と AI

企画：小寺 聡

(東京大学医学部附属病院 循環器内科)



## HEART's Selection

私たちが生きる現代社会において、循環器疾患は重大な健康問題の一つとして数多くの人々の生活に影響を及ぼしている。医療現場では、これらの疾患に対する正確で効率的な対応が常に求められ、特に循環器専門医はその最前線で日夜奮闘している。そんな中、AI 技術の進化は、診療の質を変革し、患者へのケアを改善する新たな可能性を示している。2010 年代に始まった第 3 次 AI ブームは、その後のわずかな時間で医療 AI の発展に飛躍的な進歩をもたらした。そして、2022 年に登場した ChatGPT などの大規模言語モデルは、第 4 次 AI ブームを牽引し、循環器診療と AI の結びつきをより緊密にし始めている。これらの進展は、レントゲン AI、ウェアラブルデバイスを用いた不整脈診断 AI、心エコーの検査支援 AI といった具体的な形で、PMDA によって承認され、医療現場に積極的に導入され始めている。この急速な技術革新の波に適応し、最新の AI を診療に効果的に活用するには、常に新たな知識と技術の習得が求められる。それは決して容易なことではないが、医療従事者としての私たちの使命は、新しい技術を追求し、実際の診療に活かすことに他ならない。本特集では、AI がレントゲン、心電図、心エコーの分析をどのように革新し、希少疾患の診断や循環器診療に貢献する可能性があるのかを探究している。また、ChatGPT を含む先端 AI 技術が医療現場での診断支援や治療計画の立案にどのように役立つ可能性があるかについても考察しているものである。本特集が、この新たな時代の診療の形を考え、実現していくための一助となることを願う。